

岐阜信金コア業務純益33%増

3月期役務取引が伸長

岐阜信用金庫（岐阜市）が12日発表した2025年3月期単体決算は、預け金利息や役務取引等利益が増え、本業の収益力を示すコア業務純益は前期比33・1%増の93億500万円で6期連続の増益となった。（玉田健太）

経常収益は、預貸金の増加を背景に13・9%増の353億3900万円で、4期連続の増収。貸出金利息や預け金利息、コンサルティング業務の手数料などの役務取引等利益、有価証券利息配当金の増加が寄与した。

一方、政策金利の引き上げに伴う預金利息の支払いが先行したことや、高利回りの有価証券への入れ替え、予防的に貸倒引当金を積み増したことなどにより、経常利益は5・0%減の61億1900万円、純利益は7・0%減の44億7700万円だった。

期末預金残高は法人、個人ともに増え、0・9%増の2兆6598億300万円で、過去最高となった。期末貸出金残高は法人向けに加え、住宅ローンなど個人向け融資も増えて、3・1%増の1兆5008億4700万円となり、初めて1兆5千億円を突破した。財務の健全性を示す自己資本比率は前期比0・30%上昇の9・98%となり、国内基準の4%を上回った。不良債権比率は0・01%低下して2・56%だった。

県内金融機関2025年3月期決算

経常収益	経常損益	純損益
岐阜信用金庫		
(単) 35,339 (13.9)	6,119 (▲5.0)	4,477 (▲7.0)
(予) —	—	—

【注】単位は百万円、%、配当は円。(単)は単体、(予)は2026年3月期予想。かっこ内は前期比増減率、—は非公表。

期末預金残高は法人、個人ともに増え、0・9%増の2兆6598億300万円、過去最高となった。期末貸出金残高は法人向けに加え、住宅ローンなど個人向け融資も増えて、3・1%増の1兆5008億4700万円となり、初めて1兆5千億円を突破した。財務の健全性を示す自己資本比率は前期比0・30%上昇の9・98%となり、国内基準の4%を上回った。不良債権比率は0・01%低下して2・56%だった。